

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	
施設名	国立クムクム保育園
施設所在地	東京都国立市中2丁目18-2
法人名	社会福祉法人聖光会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

子どもの思いに共感する～海の生き物への興味から広がる探究活動～

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

日々の遊びの中で、魚や海の生き物への興味や関心が高まり、「知りたい」「やってみたい」という子どもたちの声が多く聞かれるようになった。そうした思いに寄り添いながら活動を展開してい

2. 活動スケジュール

子どもの興味や気付きを起点に、話し合いや試行錯誤を重ねながら活動が広がっていった。・4～6月：釣り遊びをきっかけに魚や海の生き物への興味が高まり、図鑑や絵本を使って調べる姿が見られる。・7～9月：トカゲの飼育、水遊びや色水遊びを通して水や自然への関心が広がる。・10月：遠足で行った水族館見学を通して本物の生き物に触れ、興味や関心がさらに深まる。11月：海の生き物をテーマにした製作や表現活動(水族館づくりなど)へと発展。11月～1月：トカゲの飼育を通して、生き物の生態や命への気づきを得る。1月：調べた事や経験したことをもとに話し合いを重ね、行事へ向けてまとめ、自分たちの学びを発表する。

3,活動の為に準備した素材や道具、環境の設定

・図鑑、絵本、プロジェクター(生き物の興味を深める環境)・廃材や製作素材(海や水族館づくり)・水遊び・色水遊びの環境・生き物の飼育環境(トカゲ)・話し合いの場(子ども同士で考えを共有できる空間)。子どもたちが自分で選び、試し、考えられる様に環境を整えた。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

図鑑や絵本を使って調べる／調べたことを他クラスへ発表/トカゲの飼育/今回の活動を大型絵本と劇にまとめ保護者の方に自分達で発表

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

釣り遊びをきっかけに、魚や海の生き物への興味が広がり、図鑑や絵本を使って調べる活動へと繋がった。水遊びや色水遊びを通して水への興味を深めたり、水族館見学を通して実際の生き物に触れたりする中で、生き物への関心が高まっていった。海の生き物への興味から、当初はグッピーの飼育に向けて環境について調べる活動を行っていた。しかし、保育園にトカゲが迷い込んだ事をきっかけに、「飼ってみたい」「名前を付けてあげたい」「何を食べるんだろう?」「どんな環境が必要なんだろう,,,」など、子どもたちから自発的な声が多く聞かれるようになった。そこでトカゲ(とみちゃん)の飼育を始めると、子どもたちは主体的に世話の方法を調べたり、「お世話当番を作りたい」と話し合いながら当番表を作成したりする姿が見られた。

水の清潔さや湿度・室温の管理など、生き物を育てる上で必要な環境について学びながら、友だちと協力して成長を見守る喜びを感じていた。

また、餌として与えたコオロギを食べる様子を観察する中で、生き物同士の繋がりにも気付く姿が見られた。

トカゲの死を経験した際には、命の大切さや尊さについて考えるきっかけとなった。

その後、「とみちゃんとの思い出を形にして伝えたい」という子どもたちの思いから大型絵本の製作へと発展し、劇遊びの経験を活かして、トカゲとの出会いから別れまでのエピソードを劇として表現し、保護者に伝える活動へと繋がった。





5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子どもたちの興味や関心を出発地点に活動を展開していくことで、「やってみたい」「もっと知りたい」という思いが継続し、主体的に関わる姿が多く見られた。また、話し合いや試行錯誤を繰り返す中で、自分の考えを伝える力や、友だちと協働する力が育まれていった。さらに、生き物の飼育や観察を通して命の大切さに気づいたり、自然への興味関心が深まったりするなど、子どもたちの思いに寄り添いながら、主体的な探究活動を大切にしていきたい。